

1:急性骨髄性白血病(AML)【小児】

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 石田 宏之	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院	小児科
足立 壮一	京都大学医学研究科	人間健康科学系専攻
岩崎 史記	神奈川県立こども医療センター	血液・再生医療科
岡本 康裕	鹿児島大学医歯学総合研究科	小児科学分野
工藤 寿子	藤田保健衛生大学病院	造血細胞移植チーム
小嶋 靖子	東邦大学医療センター大森病院	小児科学講座
坂口 大俊	名古屋第一赤十字病院	小児医療センター 血液腫瘍科
清水 崇史	東海大学医学部附属病院	小児科・細胞移植再生医療科
多賀 崇	滋賀医科大学附属病院	小児科
田淵 健	がん・感染症センター 都立駒込病院	小児科
富澤 大輔	国立成育医療研究センター	小児がんセンター 血液腫瘍科
長谷川 大一郎	兵庫県立こども病院	小児がん医療センター血液腫瘍内科
村松 秀城	名古屋大学医学部附属病院	小児科
渡邊 修大	社会保険中京病院	小児科
宮村 能子	大阪大学医学部附属病院	小児科
吉原 宏樹	St. Jude Children's Research Hospital	Department of Pathology
橋井 佳子	大阪大学大学院医学系研究科	小児科学
嶋田 明	岡山大学病院	小児科
山本 将平	昭和大学藤が丘病院	小児科

2. 承認研究の進捗状況(2015年1月-12月 ※JSHCT2016を含む)

1-1	「小児 AML における第 2 寛解期再移植例の成績と再移植の意義」 PI: 多賀崇	
	学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
	論文業績: Taga T, Murakami Y, Tabuchi K, Adachi S, Tomizawa D, Kojima Y, Kato K, Koike K, Koh K, Kajiwara R, Hamamoto K, Yabe H, Kawa K, Atsuta Y, Kudo K. Role of second transplantation for children with acute myeloid leukemia following post-transplantation relapse. <i>Pediatric Blood & Cancer</i> (in press)	
1-2	「非寛解期小児 AML における移植成績」 PI: 岡本康裕	
	学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
	論文業績:	
1-3	「ダウン症候群に合併した急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」 PI: 村松秀城	
	学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	論文業績: 済(WG 研究業績一覧参照)
1-4	「小児 AML に対する自家移植の解析」 PI: 坂口大俊	
	学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
	論文業績:	

1-5	「小児・思春期 AML 第一, 第二寛解期に対するアロ造血幹細胞移植前処置の影響」 PI: 石田宏之
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照) 論文業績: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
1-6	「初回寛解期小児急性骨髄性白血病に対する自家骨髄移植を含めた造血幹細胞移植の意義を検証する臨床決断分析」 PI: 長谷川大一郎
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
1-7	「t(8;21)および inv(16)異常を有する小児急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」 PI: 村松秀城
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
1-8	「11q23 異常を有する小児急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」 PI: 宮村能子
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
1-9	「第1・第2寛解期の小児期・思春期 AML に対する全身照射レジメンと静脈投与ブスルファンレジメンとの比較」 PI: 石田宏之
学会発表: 石田宏之、他 第 57 回日本小児血液・がん学会総会 (平成 27 年 11 月 27 日—29 日)、甲府富士屋ホテル 論文業績: Ishida H, Kato M, Kudo K, Taga T, Tomizawa D, Miyamura T, Goto H, Inagaki J, Koh K, Terui K, Ogawa A, Kawano Y, Inoue M, Sawada A, Kato K, Atsuta Y, Yamashita T, Adachi S. Comparison of Outcomes for Pediatric Patients With Acute Myeloid Leukemia in Remission and Undergoing Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation With Myeloablative Conditioning Regimens Based on Either Intravenous Busulfan or Total Body Irradiation: A Report From the Japanese Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Biol Blood Marrow Transplant. 2015; 21(12): 2141-7	
1-10	「AYA 世代 AML 患者における同種造血幹細胞移植成績の検討」 PI: 富澤大輔
学会発表: 論文業績:	

3. 会議開催記録(2015年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2015年6月20日(土)	名古屋医療センター 臨床研究センター	1)進捗状況報告 2)新規研究課題について検討 ・JPLSG とのデータの”ひもづけ”を行い、重要な臨床情報(たとえば TRUMP データにない遺伝子・染色体の詳細)を含めた検討 ・JPLSGとの横断的研究(SCT委員会からAML-05 HR,IR群の移植成績解析の提案) ・MDS/AML(RAEB, RAEB-t)の移植についての提案 →主体はMDS-WGとなる予定
2015年11月28日(土)	山梨県立図書館 交流センター	1)進捗状況報告 2)新規研究課題について検討 ・AYA 世代 AML における allo SCT の成績の検討 ・小児治療関連 MDS/AML に対する allo SCT 治療の検討 →AA MDS 委員会との共同研究

4. メーリングリストによる意見交換（メーリングリスト開設から 2015 年 12 月末時点まで）
（ 663 ）回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

- 1) 既に学会発表の終了した研究課題:PI と共著者で議論を深め、早期の論文化を目指す。
- 2) AYA 世代の移植症例の解析:成人 AML WG との共同研究として AYA 世代の初回移植例の解析等を進める。
- 3) 日本小児がん研究グループ(JCCG) SCT 委員会・AML 委員会との共同研究を検討する。
- 4) 新規研究のリクルート